

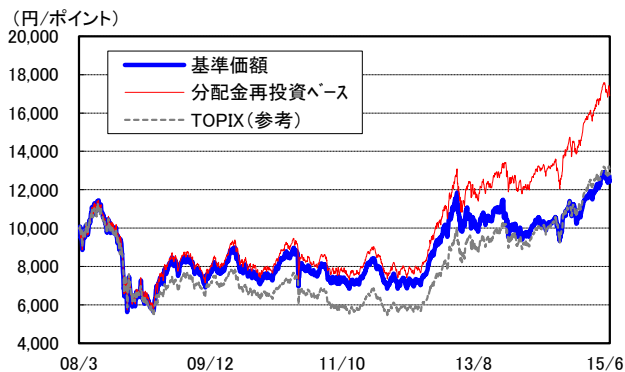
NZAM 日本好配当株オープン(3カ月決算型) / 【愛称:四季の便り】

設定日:2008年3月3日 償還日:無期限 決算日:1月、4月、7月、10月の10日(休業日の場合は翌営業日) 追加型投信/国内/株式

●商品の特色

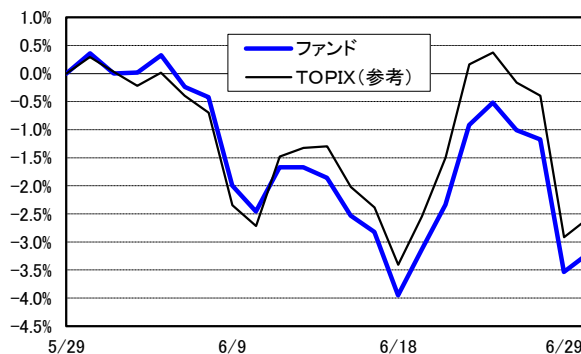
- 当ファンドは、わが国の金融商品取引所に上場されている銘柄を中心に投資を行います。
- 運用にあたっては、国内の株式を主要投資対象とし、配当利回りに着目した銘柄選定により、安定した配当収入の確保および株価の値上がり益の獲得を目指します。
- 原則として、年4回の分配を目指します。
- 株式の組入比率は原則として高位を保ちますので、基準価額は大きく変動することがあります。

●基準価額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したもとして計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 TOPIX(参考)の設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●当月のパフォーマンス推移



●設定来の運用実績

	ファンド騰落率 (分配金再投資) (1) (%)	(参考指数) TOPIX騰落率 (2) (%)	差異 (1)-(2) (%)
過去1ヵ月	-3.22	-2.58	-0.63
過去3ヵ月	7.54	5.66	1.89
過去6ヵ月	17.49	15.84	1.65
過去1年	29.52	29.13	0.38
過去3年	108.79	111.72	-2.93
設定日來	69.49	28.26	41.23

※1 ファンド騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 当ファンドはベンチマークを設定していませんが、参考指数としてTOPIXを掲載しています。
※3 ファンド騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

●基準価額と純資産総額

年月日	基準価額 (円)	(参考指数) TOPIX (ポイント)	純資産総額 (百万円)
2015/06/30	12,460	1,630.40	503
2008/03/03 (設定日)	10,000	1,271.15	200

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定日の基準価額は設定当初の投資元本であり、設定日のTOPIX(参考)は設定日の終値です。

●直近6期の分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2015/04/10	50
2015/01/13	500
2014/10/10	50
2014/07/10	260
2014/04/10	50
2014/01/10	730
設定日來合計	3,050

※ 1万口当たりの実績です。

●信託財産の構成

ファンド	比率(%)
国内株式現物	97.7
東証1部	97.7
東証2部	-
ジャスダック	-
その他	-
国内株式先物	-
短期資産等	2.3
合計	100.0

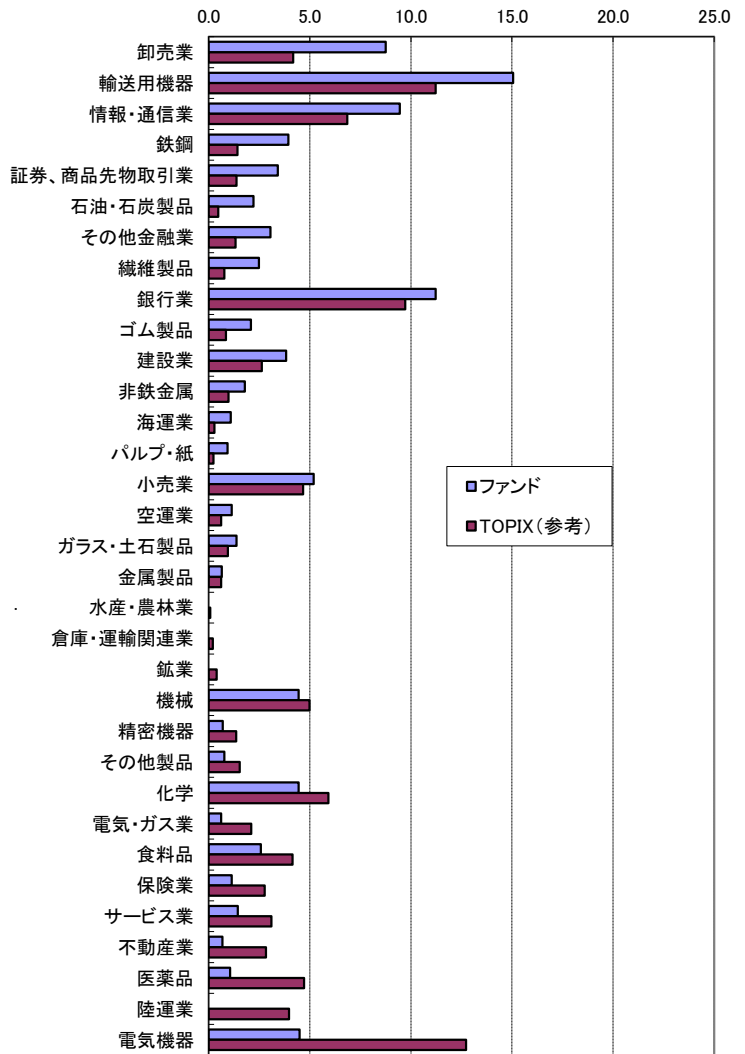
※1 比率は純資産総額対比です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

NZAM 日本好配当株オープン(3カ月決算型) / 【愛称:四季の便り】

追加型投信 / 国内 / 株式

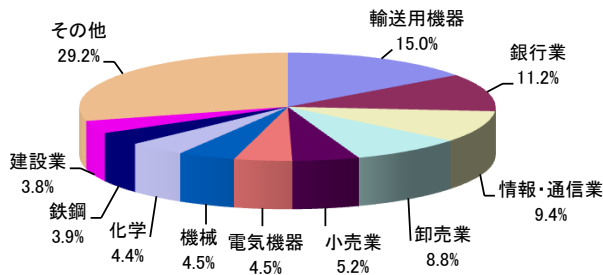
●業種別組入比率 (%)

業種	ファンド	TOPIX (参考)	差
卸売業	8.8	4.2	4.6
輸送用機器	15.0	11.2	3.8
情報・通信業	9.4	6.9	2.6
鉄鋼	3.9	1.4	2.5
証券・商品先物取引業	3.4	1.4	2.0
石油・石炭製品	2.2	0.5	1.7
その他金融業	3.0	1.3	1.7
繊維製品	2.5	0.8	1.7
銀行業	11.2	9.7	1.5
ゴム製品	2.1	0.9	1.2
建設業	3.8	2.6	1.2
非鉄金属	1.8	1.0	0.8
海運業	1.1	0.3	0.8
パルプ・紙	0.9	0.2	0.7
小売業	5.2	4.7	0.5
空運業	1.1	0.6	0.5
ガラス・土石製品	1.4	0.9	0.4
金属製品	0.6	0.6	0.0
水産・農林業	0.0	0.1	-0.1
倉庫・運輸関連業	0.0	0.2	-0.2
鉱業	0.0	0.4	-0.4
機械	4.5	5.0	-0.5
精密機器	0.7	1.4	-0.7
その他製品	0.8	1.5	-0.8
化学	4.4	5.9	-1.5
電気・ガス業	0.6	2.1	-1.5
食料品	2.6	4.2	-1.6
保険業	1.1	2.8	-1.6
サービス業	1.4	3.1	-1.7
不動産業	0.7	2.8	-2.1
医薬品	1.1	4.7	-3.6
陸運業	0.0	4.0	-4.0
電気機器	4.5	12.7	-8.2
合計	100.0	100.0	-

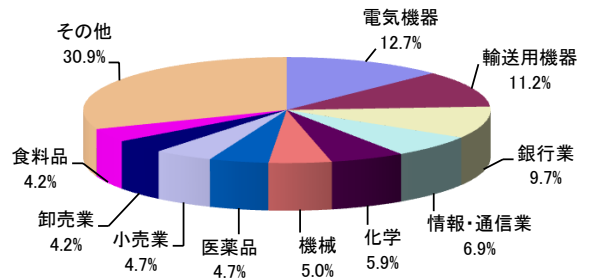


※1 業種分類は東証33分類に基づいています。
 ※2 比率は国内株式現物対比です。

●ファンドの組入業種上位(10業種)



●TOPIX(参考)の組入業種上位(10業種)



NZAM 日本好配当株オープン(3カ月決算型) / 【愛称:四季の便り】

追加型投信 / 国内 / 株式

● 組入上位15銘柄

順位	銘柄	業種	組入比率	予想配当利回り (%)
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.4	2.2
2	トヨタ自動車	輸送用機器	3.3	2.8
3	日本電信電話	情報・通信業	3.3	2.3
4	NTTドコモ	情報・通信業	2.8	2.9
5	日本たばこ産業	食料品	2.6	2.7
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.6	2.7
7	日産自動車	輸送用機器	2.4	3.2
8	みずほフィナンシャルグループ	銀行業	2.1	2.8
9	本田技研工業	輸送用機器	1.9	2.4
10	三菱商事	卸売業	1.9	2.4
11	オリックス	その他金融業	1.9	2.3
12	ブリヂストン	ゴム製品	1.7	2.9
13	新日鐵住金	鉄鋼	1.6	2.4
14	富士重工業	輸送用機器	1.6	2.6
15	野村ホールディングス	証券、商品先物取引業	1.4	2.4

※1 比率は国内株式現物対比です。

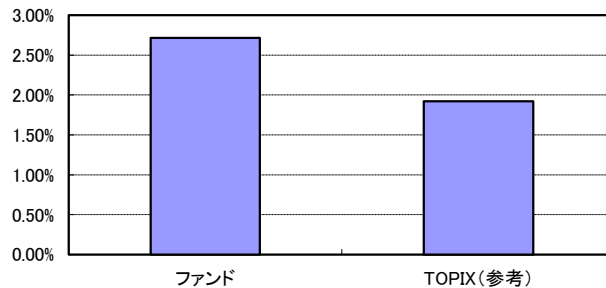
組入銘柄総数: 105銘柄

※2 予想配当利回りは、一株当たりの予想配当金額を基準日の株価で割って表示しています。予想配当金額は、税金を考慮していません。(各種データを基に当社が作成)

● 予想配当利回り

ファンド	TOPIX(参考)
2.71%	1.92%

※ 上記の予想配当利回りは、個別の銘柄の予想配当利回りを、保有資産のウェイトで加重平均したものです。(各種データを基に当社が作成)



● 主な売買銘柄

※平均単価 = 金額 ÷ 株数

順位	買付				売付			
	銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
1	日本電信電話	700	3,576	5,108	DCMホールディングス	3,700	4,379	1,184
2	新光電気工業	3,000	2,822	941	日清オイリオグループ	6,000	3,181	530
3	日本郵船	8,000	2,784	348	日立マクセル	1,500	3,014	2,009
4	日本たばこ産業	600	2,649	4,416	アマノ	1,500	2,456	1,637
5	トヨタ自動車	200	1,670	8,350	リョービ	4,000	1,929	482
6	ニプロ	1,200	1,524	1,270	青山商事	300	1,461	4,868
7	伊藤忠商事	700	1,185	1,692	セイコーエプソン	600	1,359	2,266
8	みずほフィナンシャルグループ	4,400	1,180	268	三井住友フィナンシャルグループ	200	1,106	5,528
9	日産自動車	900	1,125	1,250	ブリヂストン	200	951	4,756
10	新日鐵住金	3,000	982	327	日本電信電話	100	875	8,745
11	日本航空	200	848	4,240	三菱商事	300	833	2,776
12	日野自動車	500	769	1,539	ローソン	100	826	8,260
13	三井住友フィナンシャルグループ	100	523	5,234	トヨタ自動車	100	825	8,253
14	日本軽金属ホールディングス	2,300	498	216	三菱UFJフィナンシャル・グループ	900	798	887
15	りそなホールディングス	700	492	703	ダイハツ工業	400	708	1,769

NZAM 日本好配当株オープン(3カ月決算型) / 【愛称:四季の便り】

追加型投信/国内/株式

<運用担当者のコメント>

●6月の市場動向と運用状況

(市場動向)

6月の日本株式市場は下落しました。月を通じてギリシャ債務問題が波乱要因となりました。そのような投資環境の中、月前半は、黒田日銀総裁の円安牽制発言による円高進行などを背景にTOPIXは下落しましたが、中旬以降は、堅調な米国経済指標を受けた米国株式市場の上昇などにより、TOPIXは反発しました。月末にかけては、ギリシャのデフォルト(債務不履行)懸念が一段と強まったため下落し、月末のTOPIXは1,630.40ポイントとなりました。

業種では、インバウンド需要を受け小売業が値上がり率1位となり、以下、水産・農林業、精密機器、保険業、情報・通信業と続きました。一方、ゴム製品が値下がり率1位となり、以下、鉄鋼、海運業、鉱業、不動産業と続きました。

(運用状況)

月間の運用実績は、参考指数であるTOPIXの騰落率-2.58%に対して、当ファンドは-3.22%となり、TOPIXを下回るパフォーマンスとなりました。株式の組入比率は97.7%(月末)と高位な組み入れを継続しました。また、ファンドで保有している銘柄の予想平均配当利回りは2.7%で、TOPIXの1.9%と比べて高い水準としています。

参考指数であるTOPIXとのパフォーマンス比較では、NTTドコモ(情報・通信業)や日清オイリオグループ(食料品)、ユニーグループ・ホールディングス(小売業)や青山商事(小売業)などの銘柄を保有していたこと、ソニー(電気機器)やファナック(電気機器)を保有していなかったことなどが主なプラス要因となりました。一方で、ブリヂストン(ゴム製品)やジェイ エフ イー ホールディングス(鉄鋼)、オリックス(その他金融業)などの銘柄を保有していたこと、KDDI(情報・通信業)や第一生命保険(保険業)、村田製作所(電気機器)などの銘柄を保有していなかったことなどが主なマイナス要因となりました。業種の観点では、電気機器の銘柄を少なく保有していたことや、小売業の銘柄を多く保有していたことなどがプラス寄与となりましたが、一方で、鉄鋼やゴム製品の銘柄を多く保有していたことなどはマイナス寄与となりました。

●今後の市場見通しと運用方針

(市場見通し)

日本に関しては、外需は回復傾向にあり、生産活動については持ち直しの傾向にあります。国内需要については、追加の消費税増税の延期が決定したこともあり、消費増税後の市場心理は回復傾向にあります。消費の力強さは欠けるものの、日本経済は総じて回復基調となっています。物価については、円安進行が下支えとなるものと考えられますが、原油安の継続から伸び率は鈍化すると見込みます。日銀は物価見通しを引き下げており、物価動向によっては追加的な緩和措置も考えられます。

米国に関しては、企業部門の景況感や企業の生産・投資は、足許で鈍化基調にやや持ち直しの動きが見られます。個人消費については一旦の鈍化から持ち直しの動き、住宅関連指標も冬季の一旦の停滞から改善基調にあります。雇用は緩やかな回復軌道にあり、消費者心理も上昇基調となっています。米国経済は、企業セクターの生産投資活動の鈍化については留意が必要ですが、総じて緩やかな回復基調が続いていると考えられます。物価については、原油価格急落の影響が剥落しつつあり、金融政策は総合的な経済環境を踏まえ年内には利上げが検討されるものと考えられます。

欧州に関しては欧州経済は、原油安・ユーロ安を背景にドイツを中心に市場心理の改善傾向が見られます。ユーロ安を背景としたドイツの受注統計の改善の兆しや、欧州主要国の消費に改善の兆しが見られる一方、周辺国の失業率は高止まりするなど、各国での景気動向にばらつきがありますが、総じて持ち直し傾向にあります。物価については、マイナス圏から持ち直しの基調となっはいるものの低水準であることから、欧州中央銀行(ECB)による量的緩和策を含む緩和的な金融政策の継続を見込みます。

新興国に関しては、中国経済については、不動産価格が大きく調整の様相を示しており、景気下支えのため中国人民銀行は利下げを実施しました。消費・投資や生産活動等経済全般において成長スピードが減速しつつあります。新興国全体では金融政策や物価動向について、国ごとに二極化しています。急速な原油価格低下に伴う資源国の景気減速が懸念される一方、エネルギー価格の低下による物価上昇の鈍化から政策発動余地が生じ、利下げに転じる国がみられ、金融緩和は一定程度の景気下支えになるものと考えられます。

足許では堅調な企業業績や、日銀のETF買い入れによる需給面の下支えなどから、株価は底堅く推移しています。ユーロ圏のギリシャを巡る懸念などから、一時的な調整は想定されるものの、賃上げによる国内景気改善への期待や、企業の想定以上に為替水準が円安で推移するなど、企業業績の拡大傾向に変化は無いことから、株価は緩やかに上昇する展開を見込みます。

(運用方針)

当ファンドについては、国内の金融商品取引所に上場されている株式を主な投資対象とし、予想配当利回りが高いと判断される銘柄を中心に、株価の割安度等に注目して投資銘柄を選定します。具体的には、予想配当利回りが高いと判断される銘柄の中で、減配リスクが低く、増配余力が高い銘柄を選択します。同時に、企業の収益力、資産価値に着目したバリュエーションで割安な銘柄を選択します。また、個別銘柄の時価総額・流動性等を勘案したウェイトによりポートフォリオを構築し、適宜リバランスを行うことで、パフォーマンスの向上を目指します。

※運用担当者のコメントは6月末時点のものです。また、将来の市場環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

■ 最終ページの「主なリスクと手数料」および「留意事項」を必ずお読み下さい。

NZAM 日本好配当株オープン(3カ月決算型) / 【愛称:四季の便り】

追加型投信 / 国内 / 株式

○お申込みメモ

- 購入 いつでもご購入いただけます。
- 購入単位 販売会社が定める単位
- 購入価額 購入申込日の基準価額
- 購入時手数料 購入申込日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

- 信託設定日 2008年3月3日
- 信託期間 無期限
- 信託報酬 純資産総額に対して年1.0368%(税抜0.96%)
- 決算日 年4回(1月、4月、7月、10月の各10日(各々休業日の場合は翌営業日))
- 収益分配 委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。分配金は、原則として決算日から起算して5営業日目までに支払いを開始します。「分配金再投資(累積投資)コース」の場合は、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。

- 換金 いつでも解約請求によってご換金いただけます。
- 換金単位 1口単位
- 換金価額 換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 信託財産留保額 換金申込日の基準価額に0.30%を乗じた額
- 換金代金の支払い 換金代金は原則として換金申込日から起算して5営業日目から支払いを行います。

- 税金
 - <個人のお客様の場合>
 - ・収益分配時の普通分配金については、配当所得として取り扱われ、課税されます。
 - ・換金時ならびに償還により交付を受ける金銭等は、譲渡所得とみなし、譲渡益に対し課税されます。
 - <法人のお客様の場合>
 - ・収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額に対し課税されます。

※ 税制が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。詳しくは、販売会社、税務署などへお問い合わせください。

金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、ご購入申込みもしくはご換金申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けたご購入申込みもしくはご換金申込みを取り消す場合があります。

○委託会社、その他の関係法人

- ◆ 委託会社: 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員) 信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- ◆ 受託会社: 三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社: 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社) 追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- ◆ 販売会社: 以下をご覧ください。
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の先までお問い合わせください。
 ◆ 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
 ホームページ: <http://www.ja-asset.co.jp>
 フリーダイヤル: 0120-439-244(受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

NZAM 日本好配当株オープン(3カ月決算型) / 【愛称:四季の便り】

追加型投信 / 国内 / 株式

○主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託(以下「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

<当ファンドに係るリスクについて>

当ファンドは、主にわが国の株式を投資対象としますので、国内株式の下落による組入株式の価格の下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」です。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

<当ファンドに係る手数料等について>

◆申込手数料(1口当たり)・・・申込時にご負担いただくものです。

お申込日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。

※詳しくは販売会社もしくは申込手数料を記載した書面にてご確認ください。

◆換金(解約)手数料・・・換金時にご負担いただくものです。

ありません。

◆信託報酬・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年1.0368%(税抜年0.96%)の率を乗じて得た額とします。

◆信託財産留保額(1口当り)・・・換金時にご負担いただくものです。

換金申込受付日の基準価額に0.30%の率を乗じて得た額とします。

◆監査費用・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年0.00324%(税抜年0.003%)の率を乗じて得た額とします。

◆その他の費用(*)

有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引、オプション取引等に要する費用、外国における資産の保管時に要する費用、信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税、受託者の立て替えた立替金の利息、資金借入れを行った場合の借入金利息

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「費用と税金」をご覧ください。

(*)「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

当該手数料等の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

○留意事項

■ 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

■ 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。

■ 当ファンドは、株式などの値動きの生じる証券に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。

■ 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

■ ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

■ 東証株価指数(TOPIX)に関する著作権、知的財産、その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。また、東京証券取引所は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。